

入塾試験問題 例

小3 **sirius**

入塾試験について
学習アドバイス
解答解説
学習の手引き



菅田進学塾

sirius

Method for Essential Capability & Creativity

入塾試験の出題方針と難易度

算数

「塾に通うのはこれから」であることを前提として作問しますので、特別な勉強をしていなければ解けないような問題は出題しませんが、小学校で学習する内容よりは難しいです。全国統一小学生テストを受験されている方が多くいらっしゃいますが、おおむね同じ難易度です。全国統一小学生テストに出題されている問題のうち、かなり基礎的なレベルとかなり応用的なレベルは、選抜に適さないので出題しません。全国統一小学生テストで6～7割くらい得点できれば力としては十分で、あとはその日の出来次第だと思います。

重視しているのは「正確に計算できること」と「問題の意図を把握できること」、そして応用力として「与えられた条件に基づいてその場で試行錯誤できること（≒書きながら考えられること）」です。解法を知っていなければ解けないような問題を出题することはなく、〇〇算というような、いわゆる特殊算は出題しません。もちろん入塾後はそのような問題も学習することになりますが、入塾前から解法を知っていることを求めています。

図形問題については、高学年で一般的な、面積や角度を求める問題は出題しません。図形分野を出題する場合は、マス目を利用して広さをみたり、積み上げた立方体の数を数えたりするなど、特別な知識学がなくてもその場で考えることのできる問題として出題します。

国語

1000字前後の読解問題を2題出題します。受験されている方が多くいらっしゃる全国統一小学生テストでは、2000字を超える物語文が1題出題されることが多く、3年生にとってはかなりの長さですが、入塾試験はその半分くらいの字数の物語文と説明文を1題ずつ出題します。重視しているのは、「文章を読み内容をとらえることができるか」で、漢字や語句知識は出題しません。当てはまる接続語を選ぶ問題や、指示語の指す内容を考える問題、行動や気持ちの理由を考える問題など、ごく一般的な国語の読解問題です。もっともふさわしいものを選ぶ選択問題を何問か出題しますが、選択肢の一部分から判断したり、微妙な言い回しのちがいで判断したりするような問題は出題せず、本文の内容をとらえることができれば迷わず解答できるような問題です。記述問題を出題する場合は、原則として書き抜き問題で、自分の言葉でまとめる必要があるような難しい記述問題は出題しません。

合格基準と採点について

試験は算国各 35 分、各 100 点満点で行い、合否は算数と国語の合計で判定します。実施回によりますが、130 点～150 点が合格基準になることが多いです。どちらかの科目が極端に悪い場合に不合格になる、いわゆる足切りはありません。

小学校低学年のあいだは、ほとんどの児童は成績が安定しません。算数では計算ミスや読み間違いのミスが発生する率が高学年よりも高く、また、国語では自分にとって内容を把握しやすい文章だったかそうでなかったかによって点数が大きく変わるからです。前回から 50 点くらい点差が生じるということもめずらしくありません。複数の募集機会を設けておりますので、結果がふるわなかった場合でも、何度か挑戦していただきたいと思います。

理解度をみるのが目的ですので、採点は厳しくありません。たとえば、国語の書き抜き問題で、「遠くを見ようと目をこらした」と書き抜くべき問題で「遠くをみようと目をこらした」とひらがなで書いてしまった場合、本来は書き抜いていないのでバツですが、設問に対して答えることはできていると判断します。漢字の書き取りでも、「とめ・はね・はらい」でバツにすることはありません（入塾後は厳しく指導します）。なお、字が雑な場合も、読めれば正解にしますが、判別できない場合は正解にできませんので丁寧に書くことを心がけてください。

募集時期と試験範囲について

この問題例は、5 月～7 月にかけて行う小 3**sirius** 入塾試験の問題例です。小 3**sirius** は夏期講習から開講します。小 3**sirius** は、新小 4 から本格化する受験カリキュラムにスムーズにつなげていくための準備期間と位置付けています。開講後は、9 月～1 月までおおむね月 1 回のペースで入塾試験を行います（6 月と 11 月に行う全国統一小学生テストでも入塾判定を行います）。難関私立中学を目指す場合は、極力、新小 4（小 3 の 2 月）までに学習を開始するようにしてください。

小 3 のあいだ、試験範囲と難易度はおおむね変わりませんが、小学校で学習が進む分、算数の四則演算についての出題が若干変わります。5～7 月は「3 けたどうしのたし算・ひき算、×1 けたのかけ算、÷1 けたのわり算」まで、11～12 月には「×2 けたのかけ算」までが試験範囲となります。もし小学校で未習の場合は、あらかじめご家庭で学習しておくようにしてください。

学習アドバイス

算数

計算力と読解力を養っておくことが最低限必要です。計算は、方法を知っているというだけでなく、早く正確に計算できなければなりません。計算力は短期間に一気に引き上げるということはできませんので、計算練習を毎日やるのが最良の学習です。日々の計算をはじめるのは早いに越したことはありません。毎日取り組む習慣がない場合は、すぐにスタートすることをおすすめします。計算ドリルや百ます計算でも構いませんし、公文式やそろばん教室ならば、計算力を確実に引き上げてくれる上、集中力も身につくでしょう。塾が始まった後に両立するのが楽でないことを考えると、低学年のうちに通い、ある程度身につけた上で、3～4年生以降は塾の学習に切り替えるのがよいと思います。

算数における読解力は、問題の意図を把握できるということです。なるべく多くの経験を積むのが一番の練習ですが、小学校の学習では、どのような計算をすればいいかで迷うケースは多くないと思いますので、書店で小学校の学習レベルより少し難しめの問題集を購入して取り組むのがよいでしょう。次ページを参考にしてください。

国語

読む力が大切です。入塾試験では、本文の内容をとらえることができなければ迷わず解答できるような問題が中心ですから、文章そのものを普通に読むことができればじゅうぶん答えられます。ここでいう「読む」とは、文章の内容をつかむ力ということですが、知らない言葉や表現があったり、経験したことのない場面が描かれていたりすると、子どもには内容をつかむのが難しくなりますので、ある程度の語彙力や、文章を読み解く経験が必要です。

文章に書かれていたことに基づかず、自分の感覚や推測で答えてしまうケースもありますので、低学年のうちは、親と一緒に読んであげるといことも必要でしょう。状況が思い浮かぶように、気持ちを込めて読んだり、状況について補足や説明をしたり、登場人物の行動に対する疑問や感想を付け加えたり、知らなそうな言葉があったら意味を教えてあげたりしながら一緒に読んであげると効果的です。

文章の内容をつかめないまま答えていそうならば、低学年のうちにじっくりつきあってあげるのがよいと思います。国語の問題は、友情、母子愛、心の成長などを描いた「いい文章」が多いので、丁寧に読んで内容を味わう経験を積みさせてあげるとは子どもの成長を促しますし、きっと国語が好きになるきっかけになると思います。

問題集について

問題集を選ぶ際、子どもへの期待を込めて、到達してほしいレベルの問題集、つまり難しめの問題集を選びたくなることもあるかもしれませんが、難しすぎるものを選ばないようにしてください。できない問題ばかりが並んでいると、子どものやる気が落ちて継続できなかつたり、教え込むばかりになってしまつたりします。半分くらいは正解できるものを選ぶのがおすすめです。迷う場合は2冊購入して取り組みながら様子を見るのもよいでしょう。

意欲がありできそうならば、一つ上の学年の問題集に取り組むのも効果的です。よほどレベルの高いものでなければ取り組めるものも多いと思います。ただし、先取りして学んでおくことは大して重要ではありません。家庭学習でかなり先取りをしたとしても、中学受験のための進度の速い勉強が始まると、すぐにリードはなくなります。計算力のように、土台になる力は後になって確実に活きますが、〇〇算のようなものを先に解けるようにしておく必要はありません。問題集は、先取りするためでなく、思考レベルを引き上げるための材料と考えてください。

学習の進め方

ご家庭で取り組む際は、なるべく保護者の方が一緒についてあげることをおすすめします。低学年・中学年で、自分でやって自分で丸付けをして納得して進めるケースはめったにないと思います。できそうならば見守り、できなくて集中が切れそうならば一緒に問題文を読んであげるなど、伴走者がいることで少しずつ力がついていきます。低学年の間は、親が手を差し伸べてマイナスになることはまったくありません。

計算ドリルのように、毎日取り組む学習だと、「毎日〇ページやる」「毎日〇分やる」「〇時になったらやる」のように、約束事を作って守らせようとしがちですが、それでうまくできない場合も保護者の方の協力が必要です。もちろん、まじめな性格だったり意欲的な時期だったりして、決めた計画の通りに取り組めるケースもあるでしょうし、それに越したことはありません。でも、小学校低学年では、決めた通りに実行できないことがあるのが普通です。そのような場合は、「決めた通りにやりなさい」「自分で決めたことでしょう」と叱っても、なかなか改善できないこともありますし、嫌々取り組むことになってしまいます。計画通りにはいかないものだと思いつつ、「そろそろ計算やろうか」と先に机に座ってあげれば、きっと喜んで隣に来るのではないのでしょうか。心配なさらずとも、年齢が上がれば誰でも自立していきますので、まだ難しそうであれば、一緒につきあってあげるのが将来のためになると思います。

算数

解答

- | | | | | |
|---|------------------------------|------------------------------|------------------------------|--------------------|
| 1 | (1) 147
(5) 58
(9) 450 | (2) 574
(6) 6
(10) 250 | (3) 153
(7) 68 | (4) 557
(8) 174 |
| 2 | (1) 80
(4) 8 | (2) 400
(5) $3 \cdot 50$ | (3) 8108
(6) $0 \cdot 45$ | |
| 3 | (1) 800
(4) ① | (2) 3
(5) 200 | (3) 16
(6) ①⑤⑥⑦⑧ | |
| 4 | (1) 95 | | (2) 12 | |
| 5 | (1) ア 6 イ 3 | | (2) ウ 4 エ 1 | |

配点 1 2点×10 2~5 5点×16

大問 1,2 はやさしめで、小学校で習っている基本的な力をみます。大問 3,4,5 は問題文を把握する力と、思考力をみる難しめの問題です。大問 1,2 で 50 点の配点がありますから、ここでミスをせずに得点し、後半のうち半分くらい正解することを目安に学習してください。

解説と学習の手引き

1

(3)(4)のように繰り下がりが生じる計算や、0 の入った数字の計算でミスをしてしまうことが多いです。ひっ算を用いる場合は問題用紙の余白に書きますが、たてに位をそろえて書くべきところを雑に書いてしまい計算を間違えるケースが見受けられます。

(6)(7)(8)の逆算は間違いの多いところでは。たとえば(6)のような問題で先に $2+8$ をやっしまい、 $50 \div (2+8) = 5$ と答える間違いが多いです。ほかにも、たとえば $24 - 2 + 8$ のような計算の場合も、 $2+8$ を先にやっしまい間違いが多くなります。無意識に「きりのいい数字になる計算」や「わり切れる計算」をしてしまうのが原因です。計算の順序を確かめながら進めたり、出てきた答えを□に当てはめて確かめたりする習慣をつけて欲しいと思います。

なお入塾試験では、たし算と引き算については 4 桁あるいは 5 桁の計算まで出題します。かけ算とわり算は、5~7 月は 1 桁の数をかける、1 桁の数でわる計算までの出題ですが、11~12 月は 2 桁の数をかける計算まで出題します。試験要項をご確認の上、もし小学校で未習の場合は、あらかじめご家庭で学習しておくようにしてください。

2

- (1) ノート 1 冊が 180 円、ボールペン 2 本が $120 \times 2 = 240$ 円ですから、のこったお金は $500 - (180 + 240) = 80$ 円です。
- (2) 単位については、まよわずに単位を変えることができるよう、確実に頭に入れておきましょう。1L=10dL=1000mL、1dL=100mL です。1L 牛乳パックや 500mL のペットボトルなど身近なもので量をイメージできるようにしておくといでしょう。8dL あるジュースの半分は 4dL です。単位を変えると 400mL になります。
- (3) $1 \text{円} \times 48 = 48 \text{円}$ 、 $10 \text{円} \times 6 = 60 \text{円}$ 、 $100 \text{円} \times 10 = 1000 \text{円}$ 、 $1000 \text{円} \times 7 = 7000 \text{円}$ ですから、これらをすべて合わせると、 $48 + 60 + 1000 + 7000 = 8108 \text{円}$ です。
- (4) 箱の形には、辺が全部で 12 本あります。たて、横、高さの 3 種類の長さが 4 本ずつあると考えるとよいでしょう。この問題では、たてと高さはどちらも 4cm です。したがって、4cm の長さの辺は 8 本あります。
- (5) 午前 11 時 25 分から正午までが 35 分間、正午から午後 3 時 15 分までが 3 時間 15 分ですから、 $35 \text{分間} + 3 \text{時間} 15 \text{分} = 3 \text{時間} 50 \text{分}$ です。なお、24 時間制で表す方法もあります。午後 3 時 15 分は 15 時 15 分で、 $15:15 - 11:25 = 14:75 - 11:25 = 3 \text{時間} 50 \text{分}$ です。
- (6) 24 時間制で表した方が計算しやすいです。11 時 15 分の 1 時間 30 分後は、 $11:15 + 1:30 = 12:45$ です。これを午前午後の表し方にすると、午後 0 時 45 分です。

文章問題を中心に、基本的なレベルの問題を出題します。大問 1 と合わせて 50 点の配点があり、ここでミスをしないようにすることが大切です。長さの単位 (km, m, cm, mm)、重さの単位 (kg, g, mg)、かさの単位 (L, dL, mL)、については、単位を変えたり、たす・引くなど計算したりすることができるように学習してください。時間の単位についても、時間、分、秒をかえることができ、24 時間制と午前・午後の表記について理解できる必要があります。

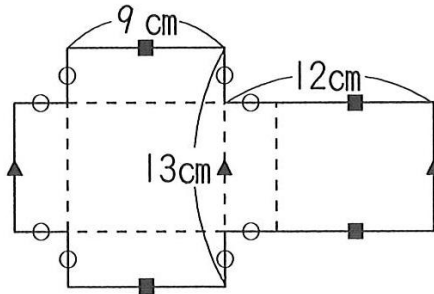
3

- (1) 単位に気をつけて計算していきましょう。2L は 20dL ですから、ゆうた君が飲んだあとに残っている水は、 $20 - 4 = 16 \text{dL}$ です。このうちの半分をお茶を作るのに使いましたから、 $16 \div 2 = 8 \text{dL}$ が残っていることになります。8dL は 800mL です。

(2) 5枚のカードから2枚をえらんで足したときにできる数を考えると、 $0+10$ と $4+6$ のとき、合計が同じになります。したがって、あまっている1枚のカードは3です。

(3) ある日の昼から2日後の昼まで、(ある日の夜)→(1日後の朝)→(1日後の夜)→(2日後の朝)ですから、とうま君は2回、妹は4回ジュースを飲みます。したがって、とうま君が $3 \times 2 = 6\text{dL}$ 、妹が $2 \times 4 = 8\text{dL}$ 、合わせて $6+8=14\text{dL}$ を飲むことになりま。はじめにあったジュースは3L(=30dL)ですから残りは $30-14=16\text{dL}$ です。

(4) 右の図で、同じ印のついた部分の長さは同じです。図を見ると、○印は $12-9=3\text{cm}$ 、▲印は $13-3-3=7\text{cm}$ であることがわかります。3種類の辺の長さが3cm、7cm、9cmである図を選ぶと、答えは①だとわかります。



(5) ヒント③から、せんべいは100円か300円のどちらかです。また、ヒント④から、せんべいは300円ではありません。したがって、せんべいは100円とわかり、さらに、ヒント①から、キャンディーは150円とわかります。残っているチョコレートとビスケットが200円か300円ですが、ヒント④から、ビスケットは300円ではありませんので、ビスケットが200円、チョコレートが300円だとわかります。

(6) どこか1つの面を床に固定して、ほかの面を組み立てるところをイメージしましょう。向かい合う面に印をつけていき、3組できるかどうかを確かめる方法もあります。

やや難しめの文章問題や図形問題を出題します。問題文の文章読解力をみることが主目的で、問題を把握できれば解くのに特別な知識は必要ありません。(1)では、「半分使った」の計算をし忘れている場合、問題文をよく読まずに読んだ気になってしまう可能性や、数字の書いてある部分だけにしか目がいていない可能性があります。指でなぞりながら問題文を読むなど、意識的に問題文を読むようにするとよいでしょう。

(3)は場面をイメージする力が問われます。式だけを書いたり暗算だけで答えにしたりせず、図のように整理して書いてみると正しくつかみやすいという経験してほしいと思います。

小学校の問題では、四則計算の延長として文章問題を学習しますので、「40円のガムを7個買って500円玉で支払うとおつりはいくらでしょう」のように、どのような計算をするのかがすぐわかるような問題が多いと思いますが、入塾試験では、問題

文を把握して状況をイメージしたり、自分で試して試行錯誤したりする力を見たいと考えています。

4

(1) 順番に整理していきましょう。どちらが長いのかを注意深く確認しながら計算していくことが大切です。青は緑よりも **9cm** 長いので、 $49+9=58\text{cm}$ です。そして、青は赤よりも **37cm** 短い（つまり赤の方が長い）ので、赤は $58+37=95\text{cm}$ です。

(2) 青のテープと緑のテープを合わせた長さは、 $58+49=107\text{cm}$ です。はり合わせるときに重ねたことで、赤と同じ **95cm** になったわけですから、はり合わせた部分の長さは、 $107-95=12\text{cm}$ です。

求められるものを順に求めていけば正解でき、作業量自体は多くありませんが、大問 3 よりも長めの問題文にしてあり、問題文を正確に読み取ることができるかどうかがかぎです。問題文が長くなると、難しいと思ってあきらめてしまったり、見えている数字を適当に足したり引いたりしてしまったりするケースがあります。ぱっと見て難しそうと思ったときにこそ、腰を据えてよく読む粘りを発揮してほしいと思います。

5

(1) 右下の四角形に着目すると、◎は $1+5+5+4=15$ であることがわかります。したがって、アは $15-1-4-4=6$ で、イは $15-5-1-6=3$ です。

(2) 左下の四角形と右下の四角形を比べると、1 とエは共通していますから、ウ+4 と $2+6$ が等しいということがわかります。したがって、ウは 4 です。すると、上の四角形から◎が $4+1+2+3=10$ であることがわかりますから、エは $10-6-2-1=1$ です。

(2)は応用問題です。与えられた数字を使って計算していけば答えにたどり着くということだけでなく、小学校で学習するレベルよりずいぶん難しいでしょう。もちろん、満点をとらなければならないわけではないので、この問題ができなくても合格点には達します。ですが、このような問題に楽しんで挑戦し、答えが出たときに喜ぶような学習を積んでほしいと思います。

国語

解答

- 1 問一 真っ先にかけてくる
問二 イ 問三 ア 問四 暑さ 問五 イ・エ（順不同）
問六 イ 問七 1 エ 2 イ 問八 イ

- 2 問一 1 ウ 3 ア
問二 ア
問三 デブリ同士が衝突することで、さらに新しいデブリが生まれてしまう
（こと）
問四 ア 問五 スペースデブリ 問六 ライフルの弾
問七 イ 問八 エ 問九 ウ

配点 1 各5点×10（問五、問七はそれぞれ加点） 2 各5点×10

解説と学習の手引き

1
小学生の国語でよくある、同年代の子どもが主人公になっている物語文です（本文は菅田進学塾が作成しました）。物語は現代の話題ではなく、過去の時代が舞台となっているもの、主人公が大人であることもしばしばです。その場合、子どもたちには場面をイメージしにくいことがあるかもしれません。今回で言うと「飼育当番」や「ウサギ小屋」というのが小学校になれば、どういうものか想像できないという子どもたちもいたかもしれません。また、子どもたちが知らない可能性のある言葉が、国語の文章ではしばしば出てきます。今回の文章では「引き継ぎ」や「デリケート」などです。言葉の意味が分からないために、情景がイメージできず問題を考えられないということもあるでしょう。日常の中で一般的知識として話してあげることや、国語の問題練習をする中で教えてあげることが国語力につながっていきます。

問一 書き抜きの問題です。書き抜きの問題はまず「文字数で探さない」ことが大切です。正しい手順は①「答えになりそうな内容を考える」②「本文中にその内容が書かれていそうな部分を探す」③「答えになる部分の文字数を確認する」です。文字数を考えるのは最後にやることです。問いを言い換えると「シロ」のいつもの様子はどうですかと聞かれているので、「シロ」が書かれてるところを探しましょう。

問二 心情を問う選択問題です。選択問題を解くときはいきなり選択肢を見るのではなく、①本文の線に戻る。②問題の答えになる部分を本文から探す。③問いの答えを考えて選択肢を見る。この手順を意識して毎回解くようにしましょう。まずは線①に戻り前後を確認してみましょう。線①の前には「冷たい不安」があり、線①のあとには「昨日はそうじを～。水を取り替えるとき～」と昨日の世話のことを思い出しています。その上で選択肢を選んでみましょう。

問三 理由を問う選択問題です。問二の選択問題の手順を行きましょう。「ウサギはとてもデリケートな生き物です」という先生の言葉を思い出し、後悔しています。デリケートとは「繊細な、傷つきやすい」という意味です。デリケートな生き物に対して「掃除を急いだかもしれない」「驚かせたかもしれない」と考えたのです。その上で選択肢を選びましょう。

問四 書き抜きの問題です。元気のない理由を文章から探します。陽菜のセリフに「つかれちゃった」とあるので「つかれ」と考えたかもしれませんが、このつかれた本当の理由を問われています。その前の「この暑さで」という部分が答えになります。問いをよく確認するのも文章を読むことと同じくらい重要です。

問五 文章の内容を問う選択問題です。問いの主語が誰なのかをしっかりと確認しましょう。今回は陽菜です。そうすると陽菜が登場した後の部分から探すことができます。本文の中盤以降に注目しましょう。

問六 比喩の理解です。「雲＝不安」「晴れる＝消える」という関係を捉えましょう。線④の前後の「重苦しかった」心が「明るい気持ちに変わっていた」という内容もヒントです。

問七 語彙に関する問題です。このような表現は教科書、本、新聞などで実際に目にしたことがあるか、会話やニュースなどで耳にしたことがあるかが大きいです。選択肢のそれぞれの表現がどういう場面で使われるのかを伝えてあげるとよいです。

問八 文章の内容を問う選択問題です。拓海のセリフ「これからはもっと、シロの気持ちや周りの環境をよく考えるようにするよ」という部分に注目しましょう。

2

約 800 字の説明的文章です（本文は誉田進学塾が作成しました）。入塾試験でも同程度の長さの説明的文章を出題します。自分の知らないことを書いてあることが多いですが、設問の答えは本文の中にありますから、聞かれていることを正しく把握し、本文の中からその答えを探すということを意識して練習してください。

問一 接続語の問題です。このような問題は①文章の前後のつながりを含めて読む、②選んだ答えをあてはめて読みなおす。この手順を覚えましょう。

1 手順①②で考えると空欄の前は「ライフルの弾のように～周回しています。」とあり、空欄のあとは「小さな破片であっても～被害をもたらすことになります。」とあります。反対の意味を述べているわけではないので**ア**「しかし」ではなさそうですね。**イ**「つまり」で迷ったかもしれませんが、「つまり」という接続語は同じ内容を言い換えるときに使います。前後の文は速さの話と被害の話になっているので**イ**でもありません。**ウ**「そのため」の答えを空欄にあてはめて読んでみましょう。

3 空欄の前は『『無限に広い空間』だと考えられてきました。』とあり、空欄の後には「限られた資源のようなものです。」と書かれています。反対の内容がありますね。**ア**「しかし」が入ります。

問二 語彙力を問う問題です。高速で飛ぶデブリが衛星に当たれば、衛星は壊れて使えなくなります。取り返しのつかない大きなダメージを指す「致命的」が正解です。

問三 書き抜きの問題です。大問 1 の物語と同様に、書き抜きの問題はまず「文字数で探さない」ことが大切です。正しい手順は①「答えになりそうな内容を考える」②「本文中にその内容が書かれていそうな部分を探す」③「答えになる部分の文字数を確認する」です。文字数を考えるのは最後にやることです。問題の条件の「～こと」につながるかどうかを見落とさないようにしましょう。自分の答えを「こと」につなげて読んでみるのが大切です。

問四 文章の内容を把握しているかを問う選択問題です。線②「宇宙もまた」とあるので他のものと同じということを意味しています。線②の直前に「海や山を汚してはいけないのと同じように」とあります。その理由はその前に「限られた資源」と書かれているのが答えです。選択問題を解くときはいきなり選択肢を見るのではなく、①本文の線に戻る。②問題の答えになる部分を本文から探す。③問いの答えを考えて選択肢を見る。この手順を意識して毎回解くようにしましょう。

問五 書き抜きの問題です。線③「自分たちが捨てたもの」＝ゴミと考えると見つけやすかったかもしれません。文字数で探しだす前に、探す内容に注目しましょう。

問六 書き抜きの問題です。「たとえ」を探す問題では、具体的な表現や具体的に挙げられている例を見つけ出すのがポイントです。今回の文章であれば、具体的な例として挙げられているものは「人工衛星」「打ち上げロケット」「ライフルの弾」「宇宙ステーション」などです。もう一つ「たとえ」を探す問題で有効なのは「まるで～」「～のような」「たとえば」のような表現に注目することです。

問七 文章の内容を把握しているかを問う選択問題です。第二段落の「スペースデブリの正体は～」を見つけられれば正解できたと思います。いきなり選択肢を見るのではなく、まずは本文を見て答えを考えるようにしましょう。

問八 文章の内容を把握しているかを問う選択問題です。「この当たり前のルールを～宇宙でも守れるかどうか」という部分が根拠です。この当たり前のルールはもちろんその前に書かれている内容です。「この」などの言葉を指示語と言います。文章中の指示語が何を指しているのかを普段から意識して読むことが大切です。

問九 本文の主題を問う選択問題です。文章の最後に、筆者の最も伝えたい主張（まとめ）が書かれています。「自分たちが捨てたものは、自分たちで片付ける」というルールを宇宙でも守れるかどうかは課題である、という記述を言い換えた選択肢を選びます。筆者は自分の伝えたいことがあり、そのために、具体的な例をあげて文章を書いています。ですが、子どもはそのように考えるのは難しいものです。文章全体を通して伝えようとしていることがあるということや、それは文章の最後に述べられていることが多いということを知っておいてほしいと思います。